

土佐日記  
門出

① 男もす  
る日記といふものを、女  
もしてみ  
とて、する  
なり。  
男性書く  
なる日記といふものを、女  
もしてみ  
とて、する  
なり。  
女性書く  
あるわたし  
思う  
のだ

②それの年の十二月の二十日余り一日の日の戌の時に、門出する。  
ある午後八時頃出發をした。

③ そのよし、いささかに　ものに書きつく。  
いささつ　すこしばかり　を  
書き付ける

④ある人、県の四年五年果てて、例のことどもみなし終へて、  
國守の任期終わつ事務引き継ぎなど全て終わつががも

解由状  
受け取つ  
住んでいた官舎  
出  
予定の  
移動した

⑤	か れ こ れ	あ の 人 や こ の 人
	、	
	知 る	知 つ て い る
	知 ら	知 ら
	ぬ	な い
	、	
	送 り	見 送 り
	す	し た
	。	

長年の間	⑥年ごろ	とても
	よく	親しく交際してき
	くらべ	
	つる	た
	人々なむ、別れがたく思ひて、	が思つ

日中 なにやかやと ながら 大声上げて騒ぎ立てる が  
しきりに、とかく しつつ、ののしるうちに、夜更けぬ。 た

⑦二十二日に、和泉の国までと、平らかに  
はせめて行こう  
無事であるようとに  
神仏に祈願する  
願立つ。

⑧ 藤原のときざね、船路なれど、むまのはなむけす。  
は  
船旅であるが馬のはなむけした。

身分の者  
の者が  
醉っぱらつて  
とても  
変なことだが  
あやしく、  
潮海のほとりにて、  
からい  
で

ふざけ合つ  
ている

⑩二十三日。八木のやすのりといふ人あり。

⑪この人、國は國司の役所で必ずしも言ひ使ふ者命令して仕事をさせる人

この男がいかめしく立派なようには馬のはなむけをたたかへて、むまのはなむけしたる。

⑫これぞ、たたはしきやうにて、むまのはなむけしたる。

見せ顔を見えないそだが田舎の人人情

見えざなるを、心ある者は、恥ぢ恥ずかしがら

⑯これは、ものによりてほむるにしもあらず。

錢別の贈り物をもらつたことよつめているわけでは

⑮二十四日。講師、むまのはなむけを馬のはなむけ

身分の人のや子ども醉っぱらつて

ありとある上・下、童まで酔ひしれて、一文字をだに知らぬ者、

手では書けないので

千鳥足を踏んで遊び興じている

しが足は十文字に踏みてぞ遊ぶ。